

関係会社との一体感を持った連結経営を目指す三井物産の関係会社の会である「三栄会」。その最新の活動状況を紹介するシリーズです。第10回は、文化交流委員会の活動の一環として開催されている東京三栄会の「社会貢献活動」の様子をご紹介します。

お問い合わせ先:事業管理部企画室 東京三栄会事務局 ☎7569  
eメールアドレス:SaneikaiTKAOI@mitsui.com  
東京三栄会ホームページ:http://www.san-eikai.or.jp

# 「奪い合えば足りない。分かち合えば余る」の精神で文化交流委員会による社会貢献活動を実施

カンボジアの小学校へ文房具・楽器・スポーツ用品を寄贈



東京三栄会・文化交流委員(右)からNPO法人「JHP・学校をつくる会」の幹部へ寄贈品の一部と目録を贈呈

東京三栄会・文化交流委員会の活動の一環として、昨年十二月から一月にかけて二種類の社会貢献活動を実施しました。その一つがカンボジアの小学校への文房具、楽器、スポーツ用品の寄贈です。窓口であるNPO法人「JHP・学校をつくる会」を通じて、不要になった文房具、楽器、スポーツ用品のカンボジアの小学校への寄贈を会員各社の社員に呼び掛けたところ、三十八社から参加表明がありました。その結果、文房具は



贈呈された鍵盤ハーモニカを手に、カンボジアのアンロントム小学校の子どもたち

百九品目、八千五百六十二点、楽器は十六品目、百六十九点、スポーツ用品は十品目、百二十点をカンボジアの小学校へ寄贈しました。会員各社の皆さんから贈られた寄贈品の数はこの数字をはるかに上回りましたが、そのうち、華やかな装飾で、子どもたちの間で奪い合いになると思われる文房具や、現地では普及していない野球などのスポーツ用品は、受け入れ側の意見に従い、除外せざるを得ませんでした。また寄贈した楽器のうち、鍵盤ハーモニカは現地の音楽教育の核となる楽器と位置付けられ、小学校の教師一名に付きクラス生徒の人数分(三十名



カンボジアのアンロントム小学校で、学生ボランティアから贈呈された文房具を受け取る子どもたち

程度の確保が必要とのこと、まだまだ不足しているとの報告もありました。

今後の活動に、今回の経験を生かしていきたいと思えます。なお、寄贈品の保管、仕分け、運送では東神倉庫の皆さんに大変お世話になりました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

## 二回目となる日本盲導犬協会への寄付

二つ目の社会貢献活動として、(財)日本盲導犬協会への寄付を行いました。二〇〇三年に東京三栄会発足二十五周年の記念事業として第一回の寄付を実施、今回は

二回目となりました。三十二社の参加表明があり、合計でおよそ八十二万円を寄付しました。  
現在日本には三十万人の視覚障害者があり、そのうち盲導犬の介護を必要とするのは八千人と言われています。しかしながら、盲導犬は二〇〇五年三月末時点で九百五十二頭しかおらず、年間に育成できる盲導犬も三十頭程度と言われています。同協会によれば、今年五十頭の育成を目標に活動しているようですが、盲導犬がその役割を果たすのは、歳から十歳までの八年間という短い期間であることから、依然として厳しい状況が続いているとの説明がありました。

\*

社会貢献活動は法人としてのCSRの観点から、また個人としても、より良い生き方を実現し、生活の質を高めていくための極めて良い方法です。「奪い合えば足りない。分かち合えば余る」と言いますが、東京三栄会ではこの精神を基礎にさらに充実した社会貢献活動を行っていきます。

(東京三栄会副会長/豊島記)